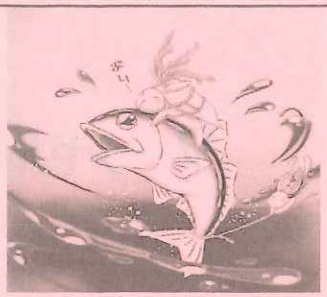
TCSW



鰤おこし

no.106 号　発行・編集：（一社）富山県社会福祉士会

〒939-0341　射水市三ケ 579　富山福祉短期大学 1 号館 1 F 内
Tel/Fax 0766-55-5572
toyama.csw@gmail.com
令和４年　３月　25 日発行

信頼関係が大切

会長　清水 剛志

新しい年度を迎える時期がやってきました。2021 年度の年度末にかけて、各種研修も立て続けに行われました。その中のある研修のなかで心に残る言葉がありました。「良い支援者が良い指導者となるとは言えない」

スポーツ界で似た表現をされることもあったかと思いますが、社会福祉士として日々の支援については一生懸命に取り組み充実したものにと心がけています。至らないところもありますが、実践できていることもあると思われます。しかし、助言や指導を求められるときに難しさを感じます。そのような思いをもっていたところ研修のなかでは「信頼関係」が大切であるとご指導いただきました。対象者のために適切な支援を行うようにと肝に銘じてきていますが、パターナリズムに陥らないように対象者との信頼関係が大切です。これは支援者同士の関係においても大切であるとあらためて考えさせられました。

社会福祉士会は様々な職種・立場の社会福祉士が集まる会です。それぞれの日々の業務や活動には違いがあると思いますが、「権利擁護」という社会福祉士の共通の基盤は同じです。活動や業務に最善を尽くすことが大切だと思います。社会の状況もなかなか安定しておらず研修会などの行事を催すことも難しい状況ですが、様々な形でみなさんと一緒に活動できるようにしていきたいと思います。よろしくお願いします。

2021 年度　委員会報告

ソーシャルワーク委員会報告

ソーシャルワーク委員会　担当理事　相山　馨

今年度は、ソーシャルワーク研修会をオンラインで開催しました。第１回ソーシャルワーク研修会は 12/26（日）に同志社大学社会学部教授の永田祐先生をお招きし、「地域共生社会におけるソーシャルワーク～社会福祉士に求められる役割とは～」をテーマにご講義いただきました。また、第２回ソーシャルワーク研修会は 2/20（日）に日本福祉大学大学院の客員教授であり、認定社会福祉士認証・認定機構の理事としてご活躍されている野村豊子先生から「ソーシャルワーク・スーパービジョン～個別スーパービジョンの理論と実践～」をテーマにご講義いただきました。

ソーシャルワーク三団体合同研修は、2/26（土）に「地域の課題にソーシャルワーカーとしていかに向き合うか～「８０５０」問題とひきこもり支援より～」の内容で実施しました。
講師は聖学院大学心理福祉学部教授の田村綾子氏でした。いずれもたくさんの方々にご参加いただきました。
来年度もソーシャルワークを学ぶ機会を積極的につくっていきたいと思います。

2021 年度基礎研修Ⅰを終えて

生涯研修委員会　担当理事　北滝めぐみ

コロナ禍２年目の基礎研修。昨年度は新しい研修様式を模索する中で一部学びを止めざるを得なかった私たちですが、e-ラーニングによる講義受講やオンラインによる演習が定着し、今年度は基礎Ⅰ～Ⅲすべての研修が実施されました。多忙ななかで時間を作り、自己研鑽に励んでこられたみなさま、本当にご苦労様でした。

基礎研修Ⅰについては、2021 年度は 18 名の方が受講・修了されています。２日の日程のうち、12 月の研修では感染防止対策をとりながら今年も対面でグループワークを行いました。オンライン研修の安全面や利便性は高く評価されています。しかし基礎研修Ⅰは、可能であれば１回は集合研修をという思いで企画してきました。社会福祉士会の研修課程の入口である研修だからこそ、共に学び続ける仲間やネットワーク作りを大切にしたい。集合研修ならではのグループダイナミックスによる効果で多様な意見に触れ、学びを深めてほしい。そして今後さらに研鑽を積んでいく意欲を高めてほしい。基礎Ⅱ以降は原則オンラインでの研修が続きます。この感染症との共存がいつまで続くかはわかりませんが、基礎研修を通じて社会福祉士としての力量を高めていこうとするみなさまのお手伝いができるよう、委員一同もスキルアップに取り組んでいきます。

困難な状況はまだ続きますが、会に所属して良かったと感じてもらえるよう、共に学び合う場や機会を大切にしていきたい。みなさんの研修参加を、そして研修をお手伝いして下さる新たな仲間をお待ちしています。

基礎研修担当の北滝理事から、研修課程の入口である研修だからこそ、共に学び続ける仲間やネットワーク作りを大切にしたい。集合研修ならではのグループダイナミックスによる効果で多様な意見に触れ、学びを深めてほしい。そして今後さらに研鑽を積んでいく意欲を高めてほしい。と報告の中にもあるように、研修で得た仲間は、これから続くであろう社会福祉士人生(オーバーかな？)の宝物となるでしょう。・・きっと。

研修を受講された２名の方に感想をお願いしました。

倫理綱領の大切さを再確認

会員　　村江　裕美

昨年から様々な研修が中止や zoom 開催になっており、集合研修自体が本当に久しぶりでした。開催して頂いた委員の皆様ありがとうございます。このままどうかコロナが収まるようにと祈るばかりです。

今回の研修は社会福祉士の倫理についてでした。社会福祉士として 10 年程働いてきたにもかかわらず、私としたことが倫理綱領を最近読んだ記憶がなく……。いかに自分がなんちゃって社会福祉士だったかを思い知らされました。

グループワークでは、これまで自分が行ってきた支援が倫理綱領の何にあたるのかを再確認することが出来ました。その時々で、クライエントにとって最善の支援方法を考えてきたつもりでしたが、倫理綱領に基づいてもっと丁寧に対応すべきだったなぁと後悔。今後は支援方法に迷った時は、倫理綱領を道しるべとして歩んでいきたいと思います。まだまだ研修は始まったばかり。先は長いですが、同期の皆さんと励まし合い、切磋琢磨しながら頑張りたいです。

第１回ソーシャルワーク研修会に参加して

会員　　長太　亜佑美

私が所属している地域包括支援センターでは、年代問わず複合的な課題を抱えた相談が増えており、「地域共生社会におけるソーシャルワーク」について、制度の流れや求められる役割を学ぶことができました。日頃の業務にも繋がる大変貴重な講義でした。

社会福祉士がこれからの包括的支援体制の中核になっていくことができるよう、個々の社会福祉士がスキルアップを図り、自身の役割を社会の人々に発信していくことが大切であると感じました。地域包括支援センターにおいても、先生がお話しておられた「あかんで返しちゃあかん」「断ってからが相談」の姿勢で相談対応を行い、他の相談機関にも繋がりを持っていきたいと思います。今回の研修で、皆様と共に研修に参加させていただき、日々の業務への活力となりました。所属組織で働く他の社会福祉士にも、研修に参加することの大切さを伝えていきたいと思います。ありがとうございました。

権利擁護委員会

権利擁護委員会　担当　酒井　誠

（１）活動報告

11月３日に「介護の日」のキャンペーン活動として「いい日、いい日 介護の日 in とやま２０２１」がファボーレで開催され、成年後見制度やスクールソーシャルワーカーについて広報啓発活動を行いました。（中山・片岡）

（２）成年後見人材育成研修を開催

専門職後見人としての社会福祉士が身につけるべき知識・技術を修得するための下記の研修を開催し、富山県から１名の方が無事修了されました。コロナ禍のため基礎研修が開催できなかった影響もあり、今回は修了者が少なかったです。なお、修了者は、専門職後見人として活動するための名簿登録研修を受講することができます。

研修概要・・・日本社会福祉士会からの委託研修　４日間のオンライン研修
石川県・福井県・富山県共同開催　主幹団体＝福井県社会福祉士会

〈ご案内〉

2022年度の人材育成研修は富山県社会福祉士会が主管団体として開催します。研修の概要は前年同様を予定しております（認証研修　日本社会福祉士会からの委託　三県合同　オンライン（受講には基礎研修を修了していることなど受講要件あり）が、詳細が決まり次第、改めてご案内いたします。

（３）「魚津市市民後見人養成講座」に講師を派遣

市民後見人を養成するための研修会（魚津市社協主催　全９日間）が開催され、ぱあとなあ富山から講師を派遣し、「意思決定支援」や「申立書類の作成」「就任直後の後見業務」「後見予算表の作成」「就任中の後見等業務」等について講義を行いました。市民後見人は身近な支援者として、また、新たな担い手として注目されています。今後も人材育成を行い、誰もが安心して暮らせる地域を共に作っていけたらと思います。

（４）研修会等に講師やアドバイザーを派遣

今年度もさまざまな団体・機関から依頼があり、講師を派遣しております。派遣先としては、富山市の地域包括支援センターや看護協会黒部・魚津支部研修会、赤十字医療ソーシャルワーカー協議会中部ブロック研修会、ゲートキーパーネットとやま、社会福祉法人くるみ、呉西地区後見センター市民後見人フォローアップ研修等です。今後も研修会（講座）の講師派遣や会議のアドバイザー派遣を行い、よりよい権利擁護体制の構築に向けて取り組んでいきたいと思います。

（５）フォローアップ研修を開催

ぱあとなあ登録者向けのフォローアップ研修として、１２月４日、高岡つばさ法律事務所の中村あずさ先生をお招きし、後見制度についてご講義をいただきました。オンライン参加の方も含めて約20名の登録者が受講されました。

（お知らせ）住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金が実施されています。
該当する被後見人等の申請漏れの無いようご注意ください。

書 評

川村隆彦著「ソーシャルワーカーが葛藤を乗り越える１０のエッセンス」（2021 年 12 月 30 日）
中央法規出版

ソーシャルワーク教育の責任とは、なにか？

会員　　根津　敦

ソーシャルワーカーとして育てて送り出す先は、嵐のような支援現場であるともいえよう。豪雨や暴風もあり、木の葉や枝が飛び回り、ときには稲光もある。もちろん、厚い雲の晴れ間から陽光が射し、温かいひとときを迎えることもある。しかし、３Ｋとも表現される、“きつい・きたない・きけん”という労働環境であるのも事実であろう。そのような過酷な労働環境であると分かっていて、ソーシャルワークを教えていることに、何らかの責任はないのだろうか？教えた責任、送り出した責任、どのように果たしたらいいのだろうか？

今までソーシャルワーク教育現場での演習や実習、支援者に求められるソーシャルワーク・スキルなど、福祉現場での活躍を願う学生や若いソーシャルワーカーに向けたテキストを上梓してきた川村先生が、現場で思い悩み苦闘しているソーシャルワーカーに向けて「ソーシャルワーカーが葛藤を乗り越える１０のエッセンス」を執筆された。ソーシャルワーカーは、社会の中でないがしろにされる人を支援する意義ある専門職であり、机上の空論ではない、実践する“生のソーシャルワーク”はソーシャルワーカー自身の人生をもより豊かにする。その素晴らしさやソーシャルワークの価値と倫理を説いてきた川村先生が、理想と現実のはざまで翻弄されながら現場の大地に自らの足で踏ん張っているソーシャルワーカーと語り合うことで知った苦闘・苦悶から、ソーシャルワークを教えてきた責任として応えたのが、この本である。第１部：パワーレスからエンパワメントへ、第２部：葛藤を乗り越えるための「１０のエッセンス」、第３部：戦い続ける「あなた」へのメッセージとあり、それぞれに章立てされている。どの章も独立しており、現場の具体的な様相を示しながら語られているので、それぞれの章を読むことで、川村先生から戦う力を得ることであろう。ケアという言葉が“社会的実践”“民主主義運動”と意味づけされつつある世界で（ジョアン・C・トロント著「ケアするのは誰か？新しい民主主義のかたちへ」を参考）、嵐の中で戦うソーシャルワーカーにとって、勇気を与えてくれるテキストであろう。

☆彡 川村先生から富山県社会福祉士会員へのメッセージ ☆彡

30 年近くソーシャルワークを見つめ、そのキャリアを閉じる時期を迎えている。そのような私が、これまでに出会った素晴らしい実践者たち、研究者たちに感謝の思いを込めて、言葉を書き残したのがこの本である。

もしあなたが、理想と現実の狭間で戦い続けるソーシャルワーカーであるなら、私は「あなた」に何かを伝えたかったのだと思う。そうだとすれば、私が書ききれなかった思いを、本書に付け加えるのは、あなたの使命なのかもしれない。

私のお勧め本

夜と霧　ドイツ強制収容所の体験記録　ヴィクトール・E・フランクル

理事　　野村 幸伸

ソーシャルワーカーにお勧めの本を紹介して欲しいとご依頼がありました。何だか自分の心を見透かされるようで、気恥ずかしさがありましたが、このコロナ禍にあるからこそ改めて手に取って読み返していた本が手元にありますのでご紹介させていただきます。

ヴィクトール・E・フランクルの 夜と霧 ドイツ強制収容所の体験記録 です。この書の原題は「強制収容所における一心理学者の体験」と訳され、悪や加害性、残虐行為を告発したようなものではなく、逆に被害者性を強調している訳でもない、あくまで精神科医としての観察による「個人の精神」を主張しているものです。昨年度のソーシャルワーク研修でも先生よりご紹介されていました。

「このコロナ禍にあるからこそ」というのは、収容所での生活のみならず、いつ終わるとも知れない苦しみという無期限の暫定性ということに共通しています。そもそも、人の人生そのものが「いつ、どうなるかわからないもの」であり、そこに関わる私たちソーシャルワーカーの仕事も同様、終わりが無いように思います。人はその様な状況におかれた時、思考し続けることや心を動かすことが難しくなります。時には安易なパターナリズムや妥協に陥りかねません。

フランクルは「ホモ・パティエンス（悩む人）」という言葉を生み出し、「どのように悩むか」という「悩み」や「苦しみ」の持つ積極的な意義に着目しています。また、尾崎新は「対人援助の技法」の著書の中で対人援助技術の本質が「曖昧さ」であることを指摘し、複雑さがつきまとい、悩み迷うことが多くなると言っています。だからこそ援助者は感情や援助観に固着することなく「柔軟」かつ「自在」に関わる為に、「どう相手に働きかけるか」ではなく、曖昧さや無力感を否定せず「いかに自分（援助者）に働きかけるか」の重要性を説いています。

これらより、私たちソーシャルワーカーは、「悩み」「苦しみ」そして「ゆらぐ」ということに対して謙虚で率直であることが専門性を形成するのではないかと感じます。（いささか飛躍し過ぎかもしれませんが…）

色々述べましたが、まだまだ得体のしれないコロナウイルス感染症が蔓延する現在、時代の違いを超えて「夜と霧」は単純に生きる意味と希望、そして一瞬一瞬に真摯に向き合うことを考えるきっかけとなる書のように思います。

引用・参考

ヴィクトール・E・フランクル，霜山 徳爾　翻訳，夜と霧　ドイツ強制収容所の体験記録，,みすず書房，　1956
諸富　祥彦，フランクル　夜と霧，　NHK 出版　2013，　尾崎新，対人援助の技法，,誠信書房，　1997

会員へお勧めの本を紹介していくコーナーです。編集委員から声がかかった方、ぜひ投稿してください（願）

事務局からのお知らせ

【本会ホームページのパスワードについて】

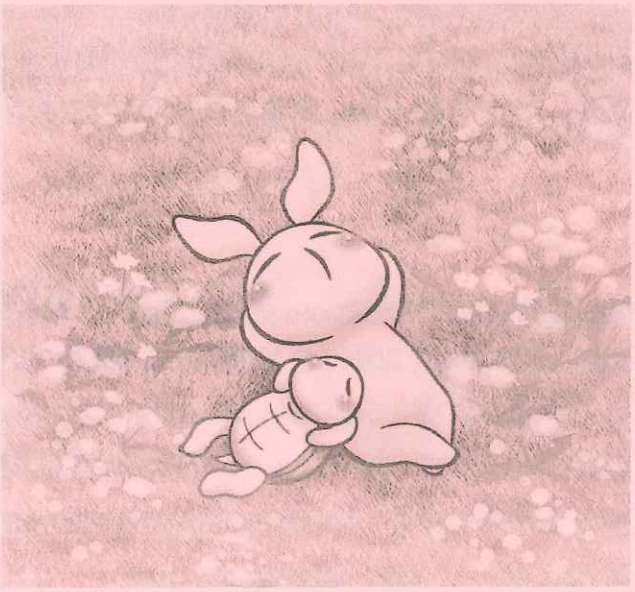
本会のホームページでは、会員対象の情報にパスワードを設定しています。
会員専用パスワードは **csw** です。（小文字半角）
なお、基礎研修受講の方は、専用パスワードを個別にお知らせしています。

※お問い合わせは、事務局まで E-mail またはお電話でお願いいたします。
（水・土日・祝祭日を除いた 10：00～15：00）

E-mail： toyama.csw@gmail.com
Tel/Fax：0766-55-5572

会員数　502 名（令和４年２月２８日現在）研修を受け自己研鑽に努めましょう。

編集後記

2021 年度が終わります。ご協力をいただいた皆様、ありがとうございました。会員の皆様にはお読みいただき感想をいただけたらと思います。引き続き、がんばる社会福祉士、私のお勧め本、など原稿を募集しております。前号で川村先生の本の紹介をさせていただいたご縁で、先生から会員へメッセージをいただきました。そこからある詩が浮かびました。高村光太郎の道程です。小学生高学年の頃、担任の先生がこの詩が好きで授業で習いました(懐)。「僕の前には道はない 僕の後ろに道はできる･･･」 道＝人生を切り開いていく決意表明、そして歩んだ後ろには確実に生きた証＝道はできている。小学生時代にこの詩に出会ったが、意味を理解したのはこの今だ。人生の後半、自分の後ろに道はできているのだろうか。その道に花が咲いていたら、私が持っている割れた壺からこぼれた水のせいだろうか。負けないぞコロナ、次年度もどうぞよろしくお願いいたします。(永野)

（鰤おこし 106 号：印刷・発送はワークハウス連帯さん、ウサギと亀のイラストは Chiaki さんです）